

事務局だより

平成29年2月27日

第5号

岩手県学校保健会
養護教諭部会事務局発行

雪が雨に変わる頃とされている雨水が過ぎ、季節は少しずつ、春に近づいております。本部会も新年度へ向けて一歩ずつ進んでまいりますので、引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願いいたします。

～各認定講習のご案内～

★希望者はHPをよくご覧になり、遅滞なく各自で手続きをしてください。

◆ 岩手県立大学大学院看護学研究科 科目等履修講座について

＜科目等履修生募集の出願受付期間は、4月入学は2月、10月入学は6月です＞

- ・平成29年度後期開講科目は6月頃にHPに掲載されます。

◆ 平成29年度 埼玉大学免許法認定公開講座

- ・公開講座の詳細は、6月頃にHPに掲載されます。

◆ 大阪教育大学大学院集中講義

- ・HPに詳細が掲載されております。

◆ 愛知教育大学免許法認定公開講座

- ・平成29年度の実施概要は、4月3日頃に公開予定です。

◆ その他、放送大学などでも単位を取得できます

- ・ので、ご確認ください。

平成28年度東日本大震災支援委員会研修会並びに交流会

1月10日（火）、久慈市の九戸教育会館で、34人の方々に参加していただき研修会並びに交流会を開催しました。

研修会では、「子どもの心に寄り添うとは～保健室で行う心のケア、東日本大震災を体験して～」と題し、前釜石市立鶴住居小学校養護教諭村上貴美子先生より御講話をいただき、言葉に表すことのできない子どもの気持ちを受け止める方法や気づきの視点、保健室で日常的に行うことが出来る心のケアを学びました。その後の交流会では、校種別に5グループに分かれ、心のケアに関する取組み状況やそれぞれの課題等について話し合い、有意義な時間となりました。



村上先生の講話を聴く参加者



校種別交流会の様子

参加者の感想から

- ・その時々の子どもの課題に応じた対応、言葉がけをされていたのが参考になりました。日常の何気ない変化に気づく目、子どもたちの様々な表現からメッセージを読み取る力を養っていきたく感じました。
- ・内陸からの参加でした。対応の実際のお話をうかがい、子どもたちの心の傷の深さを知ることができました。
- ・震災当時の対応について、子どもに寄り添う村上先生の養護教諭としての支援の在り方を学ぶことができました。
- ・被害が少ない地域だからこその悩みもあり、心のケアと防災教育のこれから、どちらにも視点のあてたお話、交流会、嬉しかったです。

(東日本支援対策委員会委員 高橋富美子)

東日本大震災対策委員会

●「東日本大震災に係わる会員の皆様の現状伺い」のまとめ●

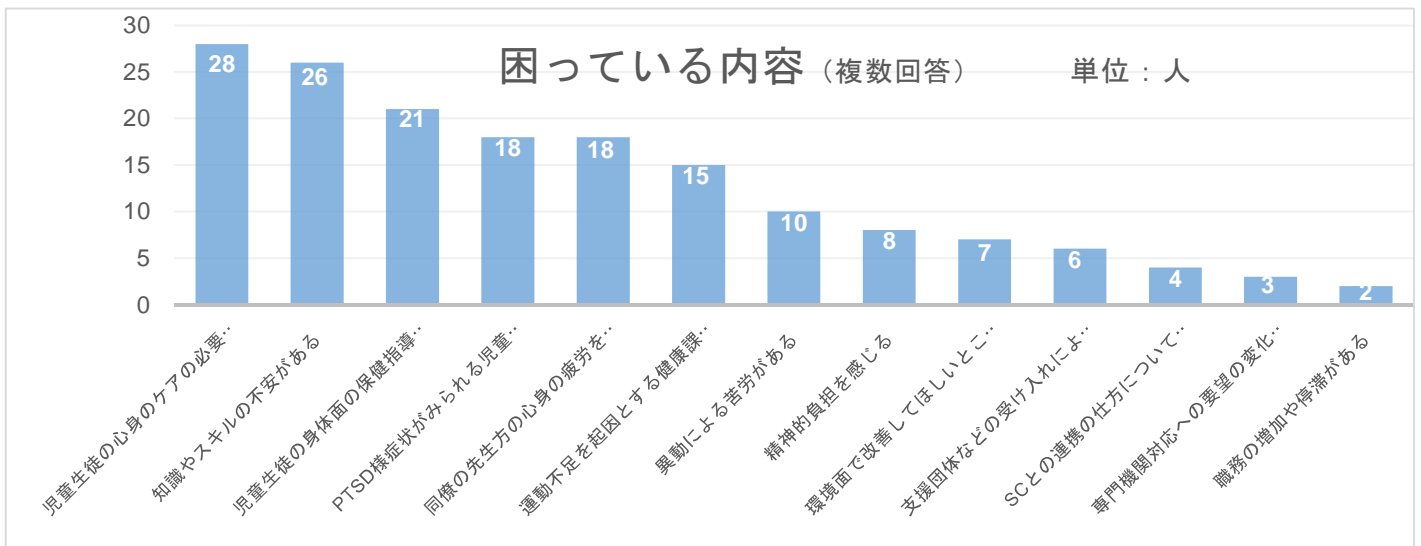
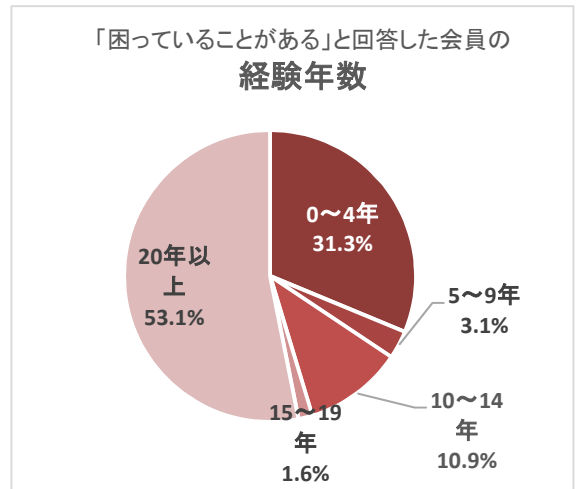
全会員に「東日本大震災に係わる会員の皆さまの現状伺い」へのご協力をお願いしたところ、多くの方からご協力を得られました。大変感謝しております。

今回お寄せいただいた声をまとめましたのでご報告いたします。回答いただいた総数は199人（昨年149人）。そのうち困り感があると回答したのは64人（32.2%）。内訳は沿岸42人、内陸22人でした。

「困っていることがある」と回答した会員の経験年数は右円グラフのとおりです。

困っている内容として多く挙げられたのは「児童生徒の心身のケアの必要性を感じる」「知識やスキルの不安がある」「児童生徒の身体面の保健指導の必要性を感じる」の項目です。

「児童生徒の心身のケアの必要性を感じる」は3年連続で1番多く挙げられており「知識やスキルの不安がある」と「保健指導の身体面の保健指導の必要を感じる」は、前年度と比べ、多く挙げられた項目でした。



【困っていることの具体的内容】

★沿岸の方から★

- ・被災状況に差があり、被災した子供が気持ちを共有できる時間や場所、人が限られている。被災した子供が思いを表出出来ているかが心配。
- ・養護教諭として働き始めたばかりであり、メンタルケアに関する知識やスキルが不十分であると感じている。
- ・校庭や体育館が自由に使えないため、運動不足、運動能力の低下、肥満などの健康課題がある。

★内陸の方から★

- ・震災に対する意識が薄れてきている。忘れないように、子供たちに伝える努力が必要だと思う。
- ・沿岸部で震災を体験、内陸部の小学校に転入し、そこから中学校に入学してきた場合。震災時の子供の状況を把握できない場合がある。
- ・沿岸から転入してきた児童の中に、避難訓練・台風等に敏感な児童もいます。心身のケアについて十分に配慮し気をつけなくてはと思っている毎日です。

（東日本大震災対策委員：和泉由香理、前田久美子）